

アパレル業界の持続可能性についての分析ークローズドループ及びサーキュラーエコノミーの視点からー

1220408 池那奈紗

指導教員 坂本泰祥

研究背景

アパレル業界では、1990年代後半からファストファッションが登場したことにより、最新のトレンドを取り入れた洋服が安価に手に入れられるようになった反面、大量生産、大量消費、大量廃棄に付随して、環境問題が深刻になってきている。ファストファッションが流行したことによって、深刻化している環境問題は、主に衣服ロスによる廃棄物問題や水質汚染、資源の枯渇が挙げられる。

研究目的

そこで本研究では、上述の環境汚染問題を食い止めるべく、持続可能なアパレル業界の構築に向けて、その可能性について分析を行うことを目的とする。

調査・分析方法

まずは、文献探索により先行研究の探索調査を行う。その結果を基にして、持続可能なアパレル業界の構築に向けて技術的、経済的な課題を明確にする。その際に、先行事例調査も並行して行う。最終的に持続可能なアパレル業界の構築に向けて、消費者の意識調査を行い、分析する。

分析結果

先行研究の調査結果により、持続可能なアパレル業界に於ける環境問題の解決のためには、クローズドループが着目されていることが明らかになった。しかし、クローズドループに対して技術的検討分析を加えた結果、将来性が乏しいことが明らかになった。実際、先行事例も確認できなかった。それに代わって、サーキュラーエコノミーという概念が期待できることが判明した。その概念を実現するためには消費者の意識が重要となるが、アンケート分析の結果、消費者はサステナブルファッションに関心はあるが、金銭問題として捉えており、実際環境問題としては取り組んでいないことが明らかになった。

考察・結論

以上のように本研究を通して、次のような成果が挙げられる。消費者の関心は高くても、実際に取り組んでいる人は少ない現状だが、サーキュラーエコノミーをより進めていくために2つのことが考えられる。お金によるインセンティブ面を充実させていくこと、及び、環境に対する意識を高める目的で環境リテラシー教育を行うことの2つである。このように、サーキュラーエコノミーであれば条件付きで将来性が期待できると論じている。